

協働パイロット事業 (H20) 企画提案書

(様式2)

1. 事業の名称

創造力を伸ばす子育て  
『積木ワークショップ』

団体名： 清水おやこ劇場

2. 事業方針 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえてください)

40年近く子どもたちに関わる活動をしてきたが、年々子どもたちが時間に追われ、想像力を発揮して遊ぶことがなくなってきたと危惧している。子どもならではの想像力、創造力は、自然の中で自由に遊ぶことよって育まれてきたが、自然が少なくなってしまうと今、私達にできることは何だろうか。清水おやこ劇場では、生の舞台を鑑賞すること、異年齢の仲間たちと様々な体験をすることで大人も子どもも育っていくと考え、活動している。昨年度は大御所四百年祭市民参画事業で、子どもの遊びに焦点を当て、地域や大人を巻き込んで活動してきた。子育てに遠ざかっていた町の人たちや、ふだんあまり遊ばないお父さんたちが一緒に行動することで、子どもたちにとって「知っている大人、信用できる人たち」がたくさんでき、世界が少し広がった。同時に「子どものことを知っているお父さん、やさしく見守る町の人たち」も増えてきたと感じている。

表現することを通じて遊びの中に取り入れていくことで、子どもは自信を持ち、大人は肩の力を抜き、自然体で接することができるようになってくる。少し気楽に、肩肘張らなくてもいい子育てを、大勢の人たちに伝えていきたい。

普遍性がある積木というツールを使えば、何をさせられるのだろうか、などという心配をしないで自然に体が動くのではないかと考えた。「たかが積木、されど積木」、単純な形だからこそ想像力をふくらませ、創造力を刺激して夢中になって遊ぶことができる。サイズの揃った1万個の積木は、子どものみならず大人の遊び心をも刺激する。積木にはまだ少し早いと思われる乳幼児には、たくさんのピーズを使った遊びも展開する。お父さんと子どもと一緒に遊んだり、青少年が自己表現の場にしたたり、大人だけで大物づくりに取り組むなど、対象年齢にあわせて取り組みができることも魅力の一つと言えるだろう。

3. 協働にあたって提案団体が果たす役割及び行政に望むこと

市でも子育て支援活動をしているが、未就園児とその親に対する支援は多くても、年齢が上がるにつれて支援は少なくなっているように思える。子どもを遊ばせるだけ、何かを提供するだけではなく、自発的にやる人を育てること、仲間を作り、能動的な子育てを応援することが大切だと考える。

清水おやこ劇場は、幅広い年代層が入り交じって活動しているという特徴がある。現役ママの悩みも、先輩ママの一言で気が楽になることもしばしばで、大きな子が自然に小さな子の面倒を見るようになる。ワークショップに参加する場合でも、預ける、預かるという感覚ではなく、ゆるやかな繋がりや会話を大切にしていきたい。

#### 4. 成果目標（できる限り具体的に表現してください）

全体として

- ・想像すること、作る楽しさ、工夫する楽しさ、壊す楽しさを思う存分味わいたい。
- ・遊びきる体験をすることで、自己表現をすること、何かを感じることなど、生きていく基本を感じてほしい。
- ・物は作った人がいること、その物を大切にすることを伝えたい。
- ・子どもの気持ちをくみ取り、待つことのできる大人が、増えていくことを特に期待する。

#### ◎お父さんと積木で遊ぼう！

母親はできるだけ別室でくつろいでいてもらう。

父親の遊び心呼び起こし、体を使って子どもと遊ぶようになる。

物づくりの楽しさを体験する。お父さんってすごい！と子どもが思える。

#### ◎ボールとカラフルビーズで遊ぼう（乳幼児親子向けワークショップ）

たくさんのカラフルなボールの動きに、母親から離れられなかった子が離れて遊ぶようになる。ビーズの中で泳いだり、同じ色を集めたり、転がす、拾うなど、指を使った細かい動作をする。遊びの延長で種類ごとに拾い集め、片づけをする。

#### ◎小学生のゆかいな積木

木のおいや、手に持った感触を意識し、物を丁寧に扱う。

何を作るのか想像力、創造力を働かせ、まとめる力、応用力をつけていく。

個人個人で好きな物を作りながら、友達との関わりを意識して、一緒に大きな物を作る。積み方を工夫し、集中して遊びきったという体験をさせたい。

#### ◎高学年～中高生のための積木

この年ならではの自由な発想で、大物作りに挑戦する。

中に入れるような大きなドーム作りに挑戦し、一緒に作り上げる喜びを味わう。少ない人数でも、この年代の子たちに特に体験して欲しい。

#### ◎大人のための積木

固くなった頭をほぐして、ひたすら積み上げるもよし、ドミノを並べるもよし。

創造意欲を高め、とにかく体を使って遊ぶ。遊び心を大切にしたい。

5. 事業計画

ワークシヨツプ

会場； 清水区内の生涯学習交流館。多目的室など、少し広めの部屋を使用する。  
3日に分けて、1日2回行う。

参加人数； 1回 20～30人（親子プログラムの場合は、20組ぐらい）

参加費； 1人 300円（親子プログラムは1組 500円）

時間； 親子プログラム 1時間 30分、小学生以上 2時間

親子プログラム

「お父さんと積木で遊ぼう！」

お父さんと子どもが積木遊び。お母さんは隣室での茶話会「子育て情報室」に参加。

「ボールとカラフルビーズで遊ぼう」

乳幼児の親子向けワークシヨツプ。積木はまだ早いかな、という小さな子むけ。

「小学生のゆかいな積木」

ゆるやかなテーマにそって、個人の積木遊びから協同作業に発展する。

「高学年～中学生のための積木」

基礎をきつちりと積み上げて、人が中に入れる大きなドームを作る。  
バランス感覚を大切に、丁寧に作り上げることを大切にしたい。

「大人のための積木」

ドミノ、塔、ドームなど、横の動きから縦の動きまで、自由な発想を形にしていく。

6. スケジュール

6月 実行委員会

講師との打ち合わせ

7月中旬～下旬 第1回 午前 ボールとカラフルビーズで遊ぼう

第2回 午後 小学生の積木ワークシヨツプ

8月下旬 第3回 午前 お父さんと積木で遊ぼう！

第4回 午後 高学年～中学生のための積木

10月下旬～11月上旬 第5回 午前 小学生の積木ワークシヨツプ

第6回 大人のための積木

12月～1月 まとめ集作り

団体名： 清水おやこ劇場

## 7. 実施体制および主要スタッフの経歴

清水おやこ劇場の運営および積木ワークショップ実行委員会を立ち上げ、実施する。

清水おやこ劇場 1971年創立

### これまでの受賞と助成金事業

- 社会ボランティア賞（ソロゾチミスト日本財団）
- 青少年団体等の顕彰（県青少年育成強化月間）
- 児童・少年の健全育成事業（日本生命財団）
- 子育て支援基金助成事業（社会福祉医療事業団）
- 子どものゆめ基金助成活動
- 平成18年度しずおか子育て未来大賞【わくわく子育て実践部門】大賞
- 大御所四百年祭市民参画事業
- 独立行政法人福祉医療機構【子育て】助成事業

### スタッフ経歴

- メイツ出版「こどもとでかける静岡あそび場ガイド」編集
- メイツ出版「静岡子育てガイド」編集
- 日本キャンソブ協会キャンソブインストラクター
- 静岡県中級青少年指導者
- 城内カウンソリング講座受講
- 小中学校教諭、幼稚園教諭、保育士、看護師、薬剤師、保健婦など多数

## 8. 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績など）

一番大切にしたいはずの家族を殺める青少年事件があまりにも多く、絶望感と共に原因がどこにあるのかを考えてしまう。あまりにも追いつめられて余裕のない子育て。早くしなさい、おれはダメ、これもダメ、と全て指図し、理想通りに動かそうとする親。親も子もくたくたになってしまっている現実が全てを語っているのかもしれない。大丈夫だから、と温かく包んでくれる人が、子どもにも母親にも必要だと思ふ。ほつと一息つく気持ちの余裕を届けたい。

そんなとき、積木ワークショップを体験して、大勢の人に伝えたくなった。小さい頃、積木が足りなくて作りたい物を作ることができなかったという人は多いだろう。ブロックで育った人は、あまり積木遊びをしなかったかもしれないが、プログラムも見本もなく、丸、三角、四角の組み合わせだけでこんなことまでできるの、と驚くほど、奥の深い遊びができる。

積木が整然と並ぶ箱をひっくり返すことから始まって、思うような形のできたときの喜び、思いがけない発見、工夫。崩さないようにそつとそつと積んでいく慎重さも、思い切って挑む大胆さも必要だ。一緒に作っている仲間を思いやることも、みんなで一斉に崩す快感も、そして最初の形に整然と戻す冷静さも、と考えると、人の営みのほとんどが、この積木遊びに集約されている。

集中しているときの子ども顔を見たい。遊びの邪魔をしないでじつと待つことの大切さに気付いた親は、子どもを追いつめなくなるだろう。子どもが可愛く感じるだろう。

## 協働パイロット事業 (H20) 見積書

団体名: 清水おやこ劇場企画のタイトル: 創造力を伸ばす子育て 『積木ワークショップ』

項 目	金 額	説 明
講師料	45000	1日 30000円×3日(半額は参加費で補う)
交通費	50000	1日 20000円×3日
食費	6000	1000円×(昼夜)×3日
チラシ・ポスター	50000	チラシ 2000枚×3回 ポスター100枚
まとめ集	20000	50冊分
事務経費	42750	予算の20%
会場費	0	生涯学習交流館を使用予定
小 計 A	213750	
消費税 B=A×0.05	10687	
合 計 A+B	224437	

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金 額	主な用途
44000円	24000	参加費 1人 300円×20人×4回
	20000	参加費 1組 500円×20組×2回 (一定の自己負担をすることで、ワークショップ に対する価値観を感じてもらえるので、講師料 の半額を目安に設定しました。)

## 企画提案の概要書

提案団体名	清水おやこ劇場
企画案のタイトル	創造力を伸ばす子育て 『積木ワークショップ』
提案の要旨 (企画提案書の概要を400字以内で ご記入ください。)	<p>永く子どもたちに関わる活動をしてきましたが、年々子どもたちを取り巻く環境は厳しくなり、時間に追われ、余裕のない顔を見せるようになってきました。「積木ワークショップ」で自由に遊ぶことにより、豊かな想像力を働かせて自由に表現する喜びを感じて欲しいと思います。サイズの統一された1万個の積木は、子どもだけでなく大人の創造力をも刺激します。</p> <p>全6回 3日間のワークショップ</p> <p>「お父さんと積木で遊ぼう！」 対象；父親と幼児  「ボールとカラフルビーズで遊ぼう」 対象；乳幼児の親子  「小学生のゆかいな積木」 一人遊びから協同作業へ  「高学年から中高生のための積木」 人の入れる大きなドームを作ろう  「大人のための積木」 自由な発想を形に</p> <p>集中しているときの子どもはいい顔をしています。それを見て、遊びの邪魔をしな  いで待つことの大切さに気付く大人が増えることを願い、行政では手の届かない小  さな喜びの苗を育てていきたいと思っております。</p>
金額	224437円

## 《注意事項》

ホームページでの公開資料です。以下のことに注意してください。

- ・ 丸数字などの特殊記号は使わないようにしてください。
- ・ 図やイラスト、写真、動画、スライド等は掲載できません。
- ・ htmlで表現できない複雑な表現方法はご利用できません。